

2020年4月10日

各位

会社名 松尾電機株式会社
代表者名 代表取締役社長執行役員 常俊 清治
(コード番号 6969 東証第2部)
問合せ先 常務取締役執行役員総務経理部門長 網谷 嘉寛
(TEL 06-6332-0871)

当社の事業の現状及び今後の事業展開等について

当社は、下記のとおり、事業の現状及び今後の事業展開等について、株式会社東京証券取引所に対し、同社有価証券上場規程第601条第1項第4号a本文に定める書面を提出いたしましたので、お知らせいたします。

本書面の提出により、2020年10月末日までのいずれかの月において、月間平均時価総額及び月末時価総額が10億円以上になった時は、同上場廃止基準に該当しないこととなります。

当社は、この度、時価総額基準に抵触いたしましたが、下記「2. 今後の展開について」に記載いたしました事業計画の推進により、業績の向上を図り、市場の信頼を回復することによって、今後も東京証券取引所市場第二部上場を維持するよう努めてまいります。

記

1. 事業の現状について

(1) 経営の基本方針

当社は、1949年12月に創業し、「企業の存在を許容するのは、お客様である」ことを原点に、世界中のお客様の信頼を得ることができる価値ある技術商品の開発・製造・販売を事業活動の軸とする「技術立社」であり続けることを経営の基本理念としています。この経営理念の推進により、経済的・環境的・社会的に持続可能な質の高い成長を目指し、株主価値の向上等を図ることができるよう経営に取り組んでおります。

なお、当社情報の詳細につきましては、下記の当社ホームページをご参照ください。

当社ホームページアドレス (<https://www.ncc-matsuo.co.jp/ir/investor/ataglance/>)

(2) 当社の事業の現状

当社の2020年3月期第3四半期累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)の業績は、売上高2,693百万円、営業損失27百万円、経常損失29百万円、四半期純損失117百万円となりました。

(当社は、2019年3月期より、従来の連結決算から単体決算へ移行しているため、対前年同四半期増減率については記載しておりません。)

営業損失計上の主要因は、売上高が低調な水準で推移した影響によるものであり、経常損失計上の主要因は、営業損失に加えて、為替差益13百万円及び支払利息15百万円の計上によるものです。

また、四半期純損失計上の主要因は、経常損失に加えて、コンデンサ取引に関する当局等の調査対応のための弁護士報酬等の独占禁止法等関連損失81百万円を計上したことによるものです。

なお、セグメント別の業績は次のとおりです。

① タンタルコンデンサ事業

コンデンサとは一時的に電気を蓄える電子部品で、小形かつ長寿命で信頼性を高めるために、希少金属であるタンタルを利用したものがタンタルコンデンサです。タンタルコンデンサ事業につきましては、自動車電装を始めとするカーエレクトロニクス向けのタンタルコンデンサの需要が低調に推移しました。この結果、

タンタルコンデンサ事業の売上高は、2,115百万円、セグメント利益は、140百万円となりました。

② 回路保護素子事業

回路保護素子とは、過電流や過電圧（静電気）からその回路を保護又は加熱や発火といった事故を防止する目的で使用される電子部品です。回路保護素子事業につきましては、車載用回路保護素子及びリチウムイオン電池向けの高電流ヒューズが順調に推移しました。この結果、回路保護素子事業の売上高は、458百万円、セグメント利益は、130百万円となりました。

③ その他

その他の売上高は、119百万円、セグメント損失は、11百万円となりました。

また、最近の当社の業績の推移は下表のとおりです。

(単位：百万円)

区分	期別					
	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 第3四半期 累計期間
	2014年4月1日 ～2015年3月31日	2015年4月1日 ～2016年3月31日	2016年4月1日 ～2017年3月31日	2017年4月1日 ～2018年3月31日	2018年4月1日 ～2019年3月31日	2019年4月1日 ～2019年12月31日
売上高	5,648	4,684	4,484	4,733	4,383	2,693
営業利益又は営業損失 (△)	△266	△296	△281	162	91	△27
経常利益又は経常損失 (△)	△240	△284	△266	148	53	△29
当期（四半期）純損失 (△)	△1,139	△1,748	△1,136	△115	△647	△117
総資産額	8,080	7,080	6,209	6,006	5,784	5,442
純資産額	5,756	3,850	2,628	2,405	1,757	1,639

※2015年3月期以降の個別の状況を記載しています。

2. 今後の展開について

当社の売上高は、2019年以降、米中貿易摩擦の影響等により、自動車電装を始めとするカーエレクトロニクス向けのタンタルコンデンサの需要が低迷しています。一方で、販売重点製品である、補聴器等の医療機器向けの下面電極構造のタンタルコンデンサ、車載用回路保護素子及び高電流ヒューズの売上高は、計画を達成し好調に推移しています。

タンタルコンデンサ事業につきましては、当社が世界に先駆けて開発し高密度実装が可能な下面電極構造のタンタルコンデンサの新製品開発を完了し、補聴器等の医療機器向けの売上高の増加を図ります。

回路保護素子事業につきましては、新製品開発により車載用回路保護素子及び高電流ヒューズに関する売上高の増加を図り、また、2019年3月1日付で当社の連結子会社であった島根松尾電子株式会社を吸収合併した統合効果も合わせ、収益性の向上を図ります。

当社の中期経営計画は、2020年3月31日をもって終了しました。業績に関する数値は、現在集計中ですが、誠に遺憾ながら、当該中期経営計画立案時の数値目標（2020年3月期において連結売上高50億円以上、連結営業利益1.5億円以上の計上）を達成することは、非常に困難な状況であると見込んでいます。

2020年4月1日以降につきましては、当社を取り巻く事業環境が、先行き非常に不透明であることを勘案し、新たな中期経営計画を立案せず、目下の経営課題を2020年度の単年度の経営計画として立案し、実行を開始しています。

当該計画では、今後の業績回復の手立てとしては、原価低減として島根工場の回路保護素子生産設備の福知山工場への移転、経費削減として一般管理費の固定経費削減並びにキャッシュ・フロー改善として売掛金の電子記録債権化の促進及びたな卸資産の削減を推進していくことにより、業績の回復を図る所存です。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大による業績への影響は、2020年3月期においては、ほとんど発生

せず、今後につきましては、現時点では不透明な状況です。

3. 今後の見通し及び上場維持について

当社は、2020年3月期通期業績予想につきましては、2019年11月6日付で公表し、売上高3,700百万円（前年同期比15.6%減少）、営業利益30百万円（前年同期比67.3%減少）、経常利益10百万円（前年同期比81.4%減少）、当期純損失120百万円（前年同期は647百万円の損失）としています。

「2. 今後の展開について」に掲げました施策の実施等により、今後、業績予想の修正が生じた場合は、速やかにお知らせいたします。

以上のように、業績改善を図り、市場からの信頼回復と企業価値の向上に向けて取り組んでまいります。これにより、当社株式の月間平均時価総額及び月末時価総額について、株式会社東京証券取引所の定める基準を上回ることにより、今後も東京証券取引所市場第二部上場を維持すべく努力してまいり所存であります。

株主の皆様をはじめ関係者の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけいたしますが、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

以上